

第16回投映法フォーラム 第一号通信

大きな困難を抱えつつ未来に向けて生きる力が求められる日々、それぞれの臨床現場で活動のことと存じます。被災された多くの方々の痛みを思い、自然災害の破壊から立ち上がる社会において、専門職として何が提供できるのかを問いながら、これまで積み重ねてきた営みを確認し、継続・発展させる活動の大切さを思います。

『投映法フォーラム』は、事例研究を中心にした投映法の研究集会を年1回開催してきましたが、本年は第16回を迎えます。おりしも、国際ロールシャッハ及び投映法学会第20回日本大会（7月16～20日：国立オリンピック記念青少年総合センター）開催にあたり、大会運営委員会よりの依頼を受けてワークショップ・プログラムを提供することになりました。

国際ロールシャッハ及び投映法学会は、地震と原子力発電所事故の被害の衝撃を受けながらも、予定通りの開催をもって被災国日本を応援する意向を表明しています（3月30日現在）。そこで今回のフォーラム第一号通信は、例年通りの投映法フォーラムと国際ロールシャッハ及び投映法学会（以下ISR2011と略記）ワークショップ・プログラムの二企画のご案内を、ISR2011大会申し込み早期割引締めきり4月30日に合わせて、例年より数週間早く第一号通信を発信いたします。

まず、7月16日に開催されるISR2011ワークショップでは、テーマを『ロールシャッハ法：量的分析と質的分析- 力動的観点からの統合』として、米国から心理アセスメントの第一人者の一人であるP., Erdberg氏をコメンターにお迎えし、吉村聡氏の事例について国際的な視点を取り入れたシンポジウム形式で検討します。午後は松本智子氏の事例をもとに、量的分析と質的分析の力動的観点の統合をめざして習熟度別小グループでの討論を行います。ひとりひとりの参加者が内容豊かな討議に参加して下さいますようにと願っております。

さらに8月28日に新潟で開催されます投映法フォーラムは、このISR2011ワークショップのテーマをさらに発展、統合させる企画として、ワークショップにおいてグループ討論を行った事例についてシンポジウム形式にてディスカッションを行います。また、午前中は、橋玲子氏より、SCTを臨床実践の場で活用するために役立つ講義をいただきます。

■ 本案内状には7月16日の国際ロールシャッハ及び投映法学会第20回日本大会のワークショップの申し込みに関するご案内と、8月28日新潟開催の投映法フォーラム申込要領（グリーン用の紙）がそれぞれ同封されています。二つのプログラムの申し込みは、それぞれの記述に沿って別個に行ってください。

2011年3月30日